



防災無線の内容がしっかりと町民に伝わるための工夫が必要です



70代・男性

4月20日青森で震度5強を記録する三陸沖を震源とした大地震が発生しました。そこで昨年7月のカムチャツカ半島沖地震、同年12月の青森県沖地震に引き続き今回も北海道太平洋沿岸に津波警報が発表され、その後には大地震が発生する可能性が平常時より高まったとして「北海道・三陸沖後発地震

注意情報」が出されました。

そこで本町の防災無線でも連日周知広報が行われていましたが、注意情報を終了する日であった27日の早朝に、今度は十勝南部地方を震源地とする地震が発生しました。

わずか40kmしか離れていない浦幌町で震度5強、本町では震度4に限りなく近い震度3が記録されました。今回は後発地震情報の対象外となる地震でしたがJRや道東道を一時使用できない規模の地震でした。しかし夕方の防災無線では早朝の地震発生には一切触れず、相変わらず同内容の原稿による周知広報でした。

広報しらぬか12月号の太陽の手紙の返答では「災害時放送は、緊急性を認識していただけるよう肉声音声による放送を含めて検討していきたい」と応えていたはずでしたが、残念ながらそのようにはなっていませんでした。今回のような対応では災害発生への危機感や緊迫感は伝わってきません。町民の防災意識を高揚させ維持するためには、リアルタイムで具体的な内容での広報活動が必要です。周知広報のあり方の再考をお願い

したいと思います。

**お答えします**

4月27日早朝の地震および、その後の周知広報のあり方について町の考え方を回答いたします。

まず、当日の防災無線(戸別受信機)の内容については、本町における地震の規模は「震度3」であり、津波注意情報等も発生していなかった状況から、これまでの取り扱いと同様に戸別受信機での放送は致しませんでした。

また、後発地震情報との関連につきましても、気象庁等の公的機関から、今回の地震は「北海道・三陸沖後発地震注意情報」とは無関係である旨が早い段階で発表されておりましたので、同日午後6時の放送では、当初の予定どおり「後発地震注意情報の期間が終了した」内容だけをお伝えしたところであります。

次に、広報しらぬか(2025年12月号)の太陽のてがみで回答をいたしました「肉声音声による放送の検討」についてであります。町では、避難指示等が必要となる警報級以上の重大な災害時において、事態の切迫性を伝えるために肉声による呼びかけを実施しており、「ここの一番」という重大な局面において、放送の緊急性を最大限に認識していただくため、肉声音声による放送を運用する方針であります。

一方で、平常時や避難指示等を伴わない事案におきましては、機械音声による放送を一貫して行うこととしております。

今後においても、防災無線(戸別受信機)の放送については、状況に応じて適切な情報の発信に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

〈危機対策課〉

